

県内企業2022年3月期決算

	売上高		経常損益		純損益		配当
バローHD							
(連)	732,519	—	24,140	—	9,014	—	56.00
(予)	750,000		25,000		11,500		58.00
KVK							
(連)	27,960	(9.9)	2,440 (▲21.7)		1,689 (▲23.1)		50.00
(予)	30,000		2,740		1,960		50.00

【注】単位は百万円、%、配当は円。(連)は連結、(予)は2023年3月期予想。かつこ内は前期比増減率、▲はマイナス。—は会計基準変更のため比較できず。

バローホールディングスが12日発表した2022年3月期連結決算は、売上高に当たる営業収益が732億1900万円となり、

7325億円 既存店改装が奏功

バローHD売上高最高

27期連続で過去最高を更新した。会計基準を変更したため前期比増減率の公表はしていないが、金額ベースでは前期から23億5100万円増えた。スーパーマーケット(SM)の既存店の改装効果に加え、買収・合併したSM店舗の売り上げ増加分、好調が続くドラッグストア(DS)事業が収益を押し上げた。店舗改装費などの増加により各利益は減益となったが、営業、経常利益は過去2番目の水準を確保した。

DS事業の既存店売上高は、マスクや衛生用品の落ち込みを受けて1・9%減となったが、新店効果や調剤、化粧品の販売が復調。電子商取引(EC)販売も伸び、全体で18億9900万円増となった。

ホームセンター(HC)事業は巣ごもり需要の反動減、昨年夏の天候不順が大きく響き、72億3000万円の減収。スポーツクラブ事業は店舗の新設や会員の確保に努め、7億1000万円増えた。

損益面は店舗の新設、改装費用や人件費の増加によって営業、経常利益は4期ぶりの減益。純利益は、固定資産の減損処理などにより43億2400万円の特別損失の計上もあり、2期ぶりの減益となった。

店舗はSM18店、DS38店など計91店舗を新設し、23店舗を閉鎖。3月末のグループ店舗数は1294。

23年3月期は既存店の改装を引き続き進めるほか、SM8店など計61店の新設を計画。DS事業の調剤強化も加速させ、増収増益を予想する。